

大阪歴史博物館 特集展示
「心齋橋ときもの ―小大丸260年のあゆみ―」
を開催します

大阪歴史博物館では、令和6年(2024)10月30日(水)から12月23日(月)まで、8階特集展示室において、特集展示「心齋橋ときもの ―小大丸260年のあゆみ―」を開催します。



大阪の中心市街のひとつである心齋橋は、近年賑やかさを増しています。そうしたなか本年3月に心齋橋筋の老舗呉服商・小大丸が創業260年を区切りにその歴史に幕を下ろしました。明和元年(1764)に古着商として開業した小大丸の前身・大和屋は、天明5年(1785)には心齋橋筋へと進出し、ほどなくして武士から庶民に至るまで、あらゆる階層の人々の衣生活を支えるようになった呉服商でした。また小大丸の歴代当主・白井忠三郎は、心齋橋のためにも大きな役割を果たした地元の名士でもありました。

本展覧会では、商業地としての心齋橋の発展と呉服商・小大丸のあゆみについて、歴史資料と近代の服飾品によって振り返ります。大阪・関西万博の開催を来年に控えさらなる変容をとげる心齋橋の歴史とともに大阪の衣生活や服飾文化の変化に目を向ける機会となれば幸いです。

主な展示資料

昭和10年(1935)の小大丸店頭(左)と店頭提灯(右)

ともに『写真心齋橋』(大阪歴史博物館蔵、柴垣和夫氏寄贈)所収

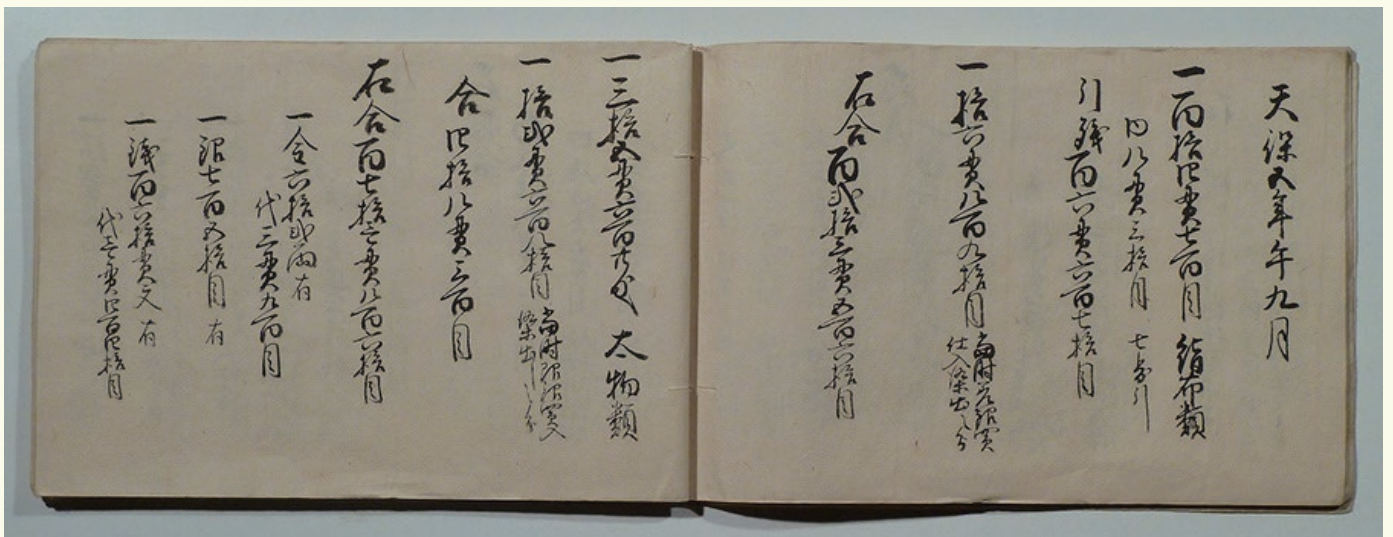


昭和10年に刊行された『写真心齋橋』の「小大丸呉服店」の紹介には「呉服店の総元締といっても過言ではない同店は、古典の店容の中に、最も新らしく権威ある色と柄を盛る、その健実の商策は時代を超へ、店内に醸さるゝゆかしき匂ひは永遠の流行性を帯びる、同店こそは全専門店の誇りでなければならぬ」とあります。店頭に設けられた大きな開口部を持つショーウィンドウはその商売の盛んであったことを知らしめています。

ありものかんじょうちよう

有物勘定帳

天保5年(1834) 大阪歴史博物館蔵(白井清一郎氏寄贈)



小大丸を経営した白井家の祖・大和屋忠三郎は、明和元年(1764)に大坂で古着商・大和屋として開業、天明5年(1785)には心齋橋筋へと進出しました。この資料は半年ごとに行われた大和屋の資産の決算帳簿で、天保5年(1834)9月のものです。



つるずそめふりそで
鶴図染振袖

昭和時代 株式会社小大丸蔵

昭和5年(1930)に小大丸で調製された友禅染の婚礼衣装です。大阪人の好みに沿った《はんなり》とした図様は、円山応挙の鶴図を写したといひます。友禅独特の暈かし込みの技法を活かして染められた鶴図がじつに見事です。それに対して背景は黒と緑のグラデーションを組み合わせた抽象的な草木を配置し、鶴の写実性を引き立てる絶妙な仕上がりとなっています。

むかいつるびしもんふりそで
向鶴菱文振袖

昭和時代 株式会社小大丸蔵

戦時中の昭和17年(1942)に呉服商・小大丸こと白井家に
こし
輿入れした女性の婚礼衣装で、鶴を大胆にアレンジした《粹》
すい
な一領となっています。ほかに紅白梅図振袖や三枚襲の婚
さんまいがさね
礼衣装も持参しています。戦時中は国民服や婦人標準服の
導入、衣服切符の配布などの統制が行われていましたが、
老舗呉服商への輿入れにふさわしい婚礼衣装を調えたこと
が伺えます。



関連行事

◆展示解説

【日 時】令和6年11月2日(土) 午後2時～(約30分)

【担 当】中野朋子(大阪歴史博物館 学芸員)

【会 場】大阪歴史博物館 8階 特集展示室

【参加費】無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要です)

【参加方法】当日直接会場へお越しください(事前申込は不要です)

◆ミニ講座と座談会

「一 観て聴いて考える — 心齋橋ときもの これまでとこれから」

心齋橋と〈きもの〉を取り巻く状況に限らず、最近のまちや文化的な背景の変化は著しい変化が見られます。そこで第1部では、大阪や阪神間の暮らし・文化に深い想いを寄せる研究者が〈心齋橋〉や〈きもの〉をキーワードに、《これまで》の歴史について語ります。第2部は座談会で、第1部の登壇者に加え、呉服商・小大丸の関係者をお招きして《これから》の心齋橋や大阪のきもの文化について考える機会としていきます。

【日 時】令和6年11月24日(日) 午後1時30分～4時(受付:午後1時～)

【会 場】大阪歴史博物館 4階 講堂

【定 員】200名(先着順)

【参加方法ならびに参加費】

①インターネットによる事前申込: 参加費1,000円

→Pass Marketにてチケットをご購入ください。

②席に余裕があるときは、当日受付をおこないます。参加費1,200円

→直接会場にお越しください。

※はがきによる申込は受け付けておりません。

※いずれの場合も特集展示の観覧には別途入館料が必要です。

【内 容】

《第1部》ミニ講座「心齋橋の《これまで》」

(1)「モダニズム心齋橋ふたたび」

橋爪節也氏(大阪大学名誉教授)

(2)「阪神間の女性気質～「心ブラ」再考～」

明尾圭造氏(大阪商業大学教授、商業史博物館主席学芸員)

(3)「モードとデザインのまち・心齋橋、《きもの文化》は消えたのか？」

中野朋子(大阪歴史博物館学芸員、本展企画担当)

《第2部》座談会「心齋橋筋ときもの これまでとこれから」

(登壇者)※順不同

白井禎一氏(株式会社小大丸)

白井良司氏(株式会社小大丸ビル)

橋爪節也氏(大阪大学名誉教授)

明尾圭造氏(大阪商業大学教授、商業史博物館主席学芸員)

中野朋子(司会、大阪歴史博物館学芸員)

開催概要

- 【名称】 特集展示「心齋橋ときもの ― 小大丸260年のあゆみ ― 」
- 【主催】 大阪歴史博物館
- 【会期】 令和6年10月30日(水)～12月23日(月)
- 【休館日】 火曜日
- 【開館時間】 午前9時30分～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで
- 【会場】 大阪歴史博物館 8階 特集展示室(常設展示場内)
〒540-0008 大阪府中央区大手前4-1-32
電話 06-6946-5728 ファックス 06-6946-2662
<https://www.osakamushis.jp/>
(最寄駅)Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅②・⑨号出口
大阪シティバス「馬場町」バス停前
- 【観覧料】 常設展示観覧料でご覧になれます。
大人600円(540円)、高校生・大学生400円(360円)
※()内は20名以上の団体割引料金
※中学生以下・大阪府内在住の65歳以上(要証明証提示)の方、
障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料
- 【展示資料数】 約50点

取材について

取材をご希望の場合は、事前に下記担当までご連絡ください。
(連絡先) 大阪歴史博物館 企画広報課 企画広報係
電話 06-6946-5728 ファックス 06-6946-2662